WASON
HQ
1124
J74+

Oct. 27
1888
no. 133

The Woman's Magazine.

女學雜誌

一冊五錢
當府内無郵税

版權所有
各土曜日出版

明治廿一年 (第百參拾參號) 十月廿七日發

社説
婦女子修身の覺悟(其三)愼密なれ

論説
日本婦人の洋服(渡邊鼎) 女學生論(其二)(星野光多)

批評
文明の母○眞粧婦○文覺上人勸進帳○穂積博士、婦人の男氣○植木枝盛、子婦は舅姑と別居すべし

叢話
婦人衞生一斑(櫻井郁二郎)○子供の養育○島田三郎君來報○白痴教育の事(其二)○功利と美麗

小説
哲女の卷

佳傳
ウイルラルド女史

寄書
新報
外報
小供談

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1124
J74+

明治廿一年（第百參拾參號）十月廿七日發

社説
婦女子修身の覺悟（其三）愼密なれ

論説
日本婦人の洋服（渡邊鼎）女學生論（其二）（星野光多）

批評
文明の母○眞粧婦○文覺上人勸進帳○穂積博士、婦人の勇氣○植木枝盛、子婦は舅姑と別居すべし

叢話
婦人衛生一斑（櫻井郁二郎）○子供の養育○島田三郎君來報○白痴教育の事（其二）○功利と美麗

小説
哲女の巻

佳傳
ウイルラルド女史

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 133. OCTOBER 27TH, 1888.

EDITORIAL:— Woman's Resolutions in Life (III). Be Conscientious.

LEADING ARTICLES:— Japanese Ladies in Foreign Costume, by Dr. K. Watanabe. On Girl-Students, by Mr. K. Hoshino.

CRITICAL NOTES:—"The Mother of Civilization." "Woman's Courage." "The Newly Married Couple ougt to Live Separated from their Parents."

MISCELLANIES:—" Hygiene for Woman" "Children's Education (Clara Whitney Kaji)." " A Report from Mr. S. Shimada." Utility and Beauty."

BIOGRAPHIES:— Frances E. Willard.

NOVELS:— " Tetsujo no Maki." (VI).

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

通信女學 第拾四巻 發兌

本月廿六日出版せり

定價一部[illegible]七十頁

誰しも最良の教科書

[illegible]

●珊瑚の珠　（第八十三回）

小宰相の局に歌をすゝめ侍しを。讀てをくるとて

今更に何尋らむ書すてゝ跡なき和歌の浦のもくづを。

と申して侍し返事に

歌をすゝめられしかば。あらたによみて送るとて。別に此歌をそへてこされし也。歌の心は。和歌の事を尋給へども。もくづ同前の歌なれば。書とめてもをかず。どこにやら。かき捨て。跡かたもなきぞ。尋ね給ふは。めいわくに侍るに。など尋給ふらんと也。歌をかくを藻屑を播によせていへり。

もくづをやかきもすてけん和歌の浦にさながら玉の殘るとぞみる。

前方の歌どもは。皆もくづとてこそ。かき捨給ふらん。それも定て玉の如くにぞ有つらん。さて今かきて送らるゝ歌は。皆玉の如くなれば。もくづをかき捨し跡に。玉の殘りたるを見ると也。

世中のはかなきことを思ひけるをりに菊の花を見てよめる　紀貫之

秋のきく匂ふかぎりはかさしてん花より先としらぬ我身を。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百三十三號　明治二十一年十月廿七日發兌

社説

○婦女子脩身の覺悟、

三、愼密なれ。

女大學に云く、
中にも女は智慧の淺き故に、五つの疾も發る。女は陰性なり陰は夜にて暗し、所以に女は男に比ぶるに愚かにて目前なる可然事をも知らず、又人の誹るべき事をも辨まへず、我夫我子の災とも成べき事をも知らず、科もなき人をうらみ、怒り咒咀或は人を妬み惡みて我身獨り立んと思へど人に憎まれ疎まれて皆な我身のあだと成る事を知らず、最はかなく淺猿し、子を育つれども愛に溺れて習はせ悪し、斯く愚かなる故に何事も我身を謙だりて夫に從ふべし、左れば古の法に、女子を産ば三日床の下に臥しむるといへり云々。

女性は斯く迄に愚ろかなるもの乎、左りとては心細きことなり。然るに現今文明諸國の婦女子を見れば、女にして文學理學の大博士たるものあり、府知事官吏及教育衛生の委員たるものあり、萬國に廣まる大婦人會の會長たるものあり、古今に通ずる大改良會の發起者たるものあり、或は校長教頭とあるもの、醫師船長代言人となる者等、凡そ萬人に立越えて智を揮ひ才能を現はす所ろの女秀才少なしとせず」。而して今の文明諸國に於て女性が斯く活潑に立働らく所の運動は、此の年月の進むと共に更らにます／＼活潑に赴むくが如し。彼の天下第一の女權國たる亞米利加合衆國の事は最早申に及ばず、萬事保守を重んじて進歩の甚だ緩遲なる英吉利國に於ても、女子投票權の議論年々に勢力を加え、特に女學士に學位を授くるの議論近年大ひに行なはるゝ如きは、共に英國に於て此の運動の益々進歩することを證するもの也。次に女德取締の嚴密なるを以て名だゝる獨逸國に於ても、女子に高等敎育を授くべしとの議論漸ろ近々に勢力を得て、過日も千百の母は文部省に向つて女學校を更に高尙にすべき建議を呈出したりと云ふ、此の有力なる女權保守國に於ても尙ほ彼の大運動の進歩しつゝあることを知るべし」。左れば海外の文明國に於ては、啻に女性が左程に愚かならざるのみか、隨分にお利巧にてあり、其のお利巧なるに因て勢力の燃んなると向ひ當る可らざるに、此勢力は更に年と共にいよ／＼燃んならんとすと云はゞ、海外の婦人は大ひに女大學の言ふ所と異るものに似

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たり。果して然らば、日本の婦人とて別に違ふたる女性にあらねば、亦た決して海外婦人と同様の進歩に向ひ得ざる者にもあらざるべし。

凡そ生を人間に得て、萬物の靈長とし生れ出でたらん者は、其の尊重すべき靈妙の性を伸ばして、之を自由に發育生長せしむるは素と當然の事なり、上帝が女性を造り玉ひたる、本來之を男子の下に置かんとて、特更に彼を愚に爲し玉へりとは信ず可らず、故に女性が其の天賦の智力を發達して、其の正當に進み得る迄に進むは固より至當至善の事たり。」抑も一國の文明に趣むくとは、其の國民が發達して正に開化するを云ふとなり、而して國民の發達なるものは、先づ男子は男子とし、女子は女子として、四民皆なそれ〴〵の力限りに發達開化するに在るを以て、女子が其の天性の存せん限りに自由に發達するは、即ち一國文明の上に取りても亦た常に然るべき事なり。故に女子を小人に比して之を敎へ難しと爲が如き、若くは女子に智慧あるを以て國家の亂階と爲が如きは、共に是暗黑時代の迷ひとして決て現今に採用すべき意見にあらず。吾人は夢にも女性を以て男子よりも愚なりとせず、又夢にも女性を以て敎へ難く利巧に爲し難きものと心得ず、吾人が確信する所ろによれば、女子は男子と同等の智力を有するものなり、又た之を敎育して同等の智能を現はさしむることを得るもの也と信ず。」然れども吾人は亦た夢にも男女の同一なることを言はず、故に亦た其の智の同一なることを言はず、之を以て亦た男女を敎育して同一の智能を現はさしむることを得るとは言はず。蓋し男子の智慧は女子の智慧よりも多しと云はゞ、吾人は斷然として之を否なむべし、然れども亦た女子の智慧は男子の智慧に同様なりと云ふ者あらば、吾人均しく亦た斷然として之を否まざる可らず、抑も男女は質を異にするの所生にして、永劫永遠決して混同す可らざるの別異を存するが故に、其の世の中に立つて負ふ所ろの職務責任も亦た永遠に相異せざる可らず、既に其の職務責任の永遠に相異するが故に、彼等が氣質はいよ〳〵相違して亦永劫に混同す可らざるに至るべし。果して然らば男女の智力は寧ろ同等なることあるべし、決して同一なることある可らず。

何如なる進化論に因りて考ふるも、女は即はち初めより兒子を産し、男は即はち初めより産せざりし也、又何如なる社會學に因りて考ふるも、女は即はち最初の親にして、男は即はち暫く親たるの資格なかりしもの也。故に懐姙より生ずるの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

痛苦掛念、此の痛苦掛念より生ずるの愛情、若くは出産より生ずるの疲勞衰弱、此の疲勞衰弱より生ずる凡ての決果、其他親として子を愛育するの情、もしくは其後母として之を愛育するの情は、過去にも現在にも未來にも凡ろ女性たるものに存して決して男子に存せざる者なり。而して斯の如き特別の事情が特に女子に存すると均しく、亦た女子に決して存せざりし所ろの特別の事情は男子の上に存したりき、夫れ既に斯る個々特別の包圍（エンパイロメント）に取圍まれて即ち所謂る男女兩生の異質を生じたるが故に、其の質の現今の如くに相異するに至りたるは固より自然正當の決果たり、向後何如なる英雄ありて此當然の決果を覆さんと欲すと云へども、其れ全く徒勞に屬すべし」。故に吾人は、現今の女の氣質なる者には、元是人爲の壓制によりて敢て卑屈にせられたるの部分も亦必らず存在すべしと信ずると勿論なれども、而も元來此の人爲の壓制なかりしとするとも、矢張り略ぼ現今の氣質に似たるが如き者は依然として女性に存したることと察す。之を以て、スチウワートミルが女子服從論は、固より吾人が大に同意を表するの名著なりと云ども、彼の女に神經質多き理由は其久く戸外に出ざりしに由り（一一二頁）、女が小き事にのみ頓着して心の變り易き理由は其平生斯の如き事にのみ打任さるゝが故に因る（一一七頁）と云に至っては、私に之に服する能れず、太古以來何如に女子を大學に入校せしめたりとも、比較的、女子は男子よりも神經質にして亦男子よりも心配性なりしと必然なりと信ず」（參考女學雜誌第九十四五號作人の意見を明らかにするを見よ）。故に女子教育及び女權擴張の正當なる希望は、敢て女子をして其固有の本質よりも立ち越しめんとするにあらず、只人爲の壓制によりて不自然に製造したる部分を打破撤去せんとするにある也。而して何如に此不自然に製造したる部分を打破撤去したりと云へども、理想的、男女の氣質は永遠に相違せざる可らざるを知れ。バックルは其智識發達論中に云く、女子は多情的、熱心的、想像的、なるが故に多く理想の世界に住ひ、男子は冷淡、硬固、嚴格なる組織的なるが故に多く實際にして實事の世界に住ふ、之を以て女子の智は演繹的にして、男子の智は歸納的なり、女子は直覺の目あり、速に且鋭どく見穿て乍まちに一觀念を認ため、男子は更に緩やかに更らに勉勞して更らに遙かに看察す、と。レッケーは其の歐洲道德史中に云く、女子の智は不定輕率にして、大道理を大觀するよりも、寧ろ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

格別の事例に注意し、細考したる理解若くは過去の實驗によつてよりも寧ろ直覺的の理會によつて判斷す、然れども其の考への神速敏捷なる、其の極めて細かなる感じの屈曲をも悟感するとの速やかに且つ信實なるは、決して男子の及ばざる所ろなり、と。

蓋し或は然らんと思はる。抑も女性が世に於ける尋常の責任は、先づ妻となりて一家を調理するに在り、次に母と爲りて兒子を敎育するに在り、二つの事畢り余力ありて而して後ち國家公共の外事に關係するを法とす。扨て一家を調理すると云へば、先づ家內家具の整理より、朝々暮々飲食衣服の調進に及び、其外室の內外の衛生に注意し、家政の出入經濟の取締の如き、何れも極めて綿密なる智慧を要するものなり。次に、兒子敎育のことに至つては、最初產前の胎育より、赤兒を適當に保育するの心得は言ふ迄もなく、寒暑折々に隨つて之が育て方に注意すべき事、もしくは之が智德躰の發育に應じて相應の敎へを施こすべき事等、何れも極めて信切なる智慧を要するもの也。而して以上二つの責任を盡して尙ほ綽々の余裕あるときは、或は外事に關係して國家の改良に力を盡すとあり、然らざるも常に家に在つて其良人若くは男兒が外事に關係するの勞を助けざる可らず、如此き時に當つて婦人の覺悟すべきとは、固より彼の家政調理兒子敎育の心得に異る所ろありとは云へども、元是れ專ぱら外事に奔走する所ろの男子を助くるの主旨に出づるが故に、此に於て婦人に要する所ろの智慧も亦た同じく信切綿密の種類なるべし、敢て男子と同一同樣の智識あらんとを必要とせざるもの也。

左れバ、女子本然の稟質に就て之を考ふるも、若くは女子當然の責任に就て之を考ふるも、女子の智慧は大ひに男子と異る所ろあらざる可らず、人もし然らずして男女ともに同樣同一の智を揮ふべしとせバ、是れ先づ女性の稟質に逆ふもの也、次に女性本來の責任を變ぜしむるもの也、國家の上に於て大害あり遂に効益なきことを信ず」。此故に男子の智は、須らく鷹の如く見るべし、即はち冷淡にして遠く見、聳然として高く望むべし。女子の智は、須らく鳩の如く見るべし、即ち温柔にして近く見、信切にして密に望むべき也、而して此は啻に吾人が之を勸告するに止まらず、正當なる自然の大勢は、遂ひに男女を驅つて各自に斯の如くに分勞せしむるに至るべし。果して然らば、其の事物を觀察するや、男子は炎々たる郊原の大火によつて認め、女子は閃たる秒間の電光によつて

認たむるならん、其事物を研究するや、男子は黒幕を斷落して堂々として睨競がひ、女子は鋭利なる毛錐を透して先づ作まち之を窺ふあらん、其事物を判斷するや、男子は關羽の青龍刀を揮つて之を一斷し、女子は正宗の小柄を握つて鋭どく之を削り去るならん。其の趣きや固より異る、其の智慧や固より同一同様にあらず、然れども之によりて男子の智は女子の智に優れりと云ふは大ひに不可なり、手は足に向つて汝ち孰らざるが故に卑しと云ふを得ず、足は手に向つて汝ち歩まざるが故に卑しと云ふを得ず。

故に、女子が智力を養ふの工夫は、先づ女子が其智を用ゆるの地の何如なるかを覺悟し、徒らに男子と競爭して彼の無用有害の勞を爲さゝるに在り、而して所云る女子本分の責任を盡さんと欲するの智慧は、大凖ね皆な其の注意の綿密信切なることを肝要とするが故に、凡そ女子が其思を愼密にするは正に其智を養ふの第一敎則たるを知るべき也。故に女子平生の行狀は極めて規矩に準ふべし、苟且にも亂暴なる可らず、能く細事に愼しみ、小物をも徒らにせず、勉めて其の思を密にし、其の用意を細かにし、以て能く微細毫末に注意するの鋭を養ふべし。

論説

○日本婦人の洋服

在米ドクトル　過渡　鼎

凡そ人間の生活するや晝夜間斷なく躰中に於て温を發生して以て生活の官能を營むものにして其の温たる皮膚よりは發汗(全身の汗孔大約二百三十八萬一千二百四十八個)に混じて排泄し肺臓より呼氣に混じて呼出さるゝものにして一晝夜間に人身の皮膚及び肺より排泄する温量は大約五十萬乃至百萬温量あり左れば人身の空氣中に在るや恰も温暖にして且濕潤せる物躰の空氣中に暴露せるが如く常に發散(Radiation)傳導(Conduction)及蒸發(Evaporation)の三作用に由て不斷空氣中に温を發散するものなるが故に今此の發散をして非常の過不及なからしめ以て身躰の健康を保たしめんと欲するには適宜に其の發散を保護する所のもの則ち衣服なかる可らず然り而して衣服は又啻に健康を保護するのみならず彼の文明社會に於て最も貴重する人道を保護するの一具たらざる可からず故に衣服の目的に就ての必要なる點は左の如し。

(第一)衣服に就ての必要(Necessity of Clothing)

(一)身躰各部の温度を適宜に保護し且其の温の俄然變化するを防ぐこと。

（二）可成身躰を被包するの必要則ち廉節（Modesty）を有すること。

（第二）衛生上に關して衣服の適任（Justification of clothing.）

（三）可及的輕易ならしむること。

（四）身躰の運動に自由ならしむること。

（五）身躰の機器を壓迫せざること。

（六）着用に輕便なると及び經濟あること。

（第三）衣服の品質（Material of clothing.）

偖衣服の必要大略右に述ぶるが如くなるが故に今此の原則に基きて日本女服と西洋女服との是非善悪を判決するは公平無私の裁判にして蓋し大過なかる可きを信ずるなり。

（第一）西洋服は身躰各部を充分被包するが故に身躰各部の躰温を平當に保護し且俄然の變化を防ぐに充分なるも和服は所々開放するが故に温を保護すること充分ならず且俄然の變化に襲はれ易し。

（第二）西洋服は充分身躰を被包して「モデスチー」を有すること充分なり和服は頗る不完全なり。

蓋し中央アフリカの如き熱帶地方の野蠻國にして道德廉恥の何たるを知らざる人民に在ては衣服の必要も「モデスチー」の貴重も感ぜざる可しと雖も苟も文明國たらん限りは其の必要是より大なるは勿らん。

（第三）衣服は全躰の輕重に就ては西洋服も和服も大差なかるべしと雖も洋服は上下別個に製するが故に重力も亦二個に別れて胸部に加ふる重量則ち上衣は頗る輕くして呼吸の運動を妨ぐること鮮なきも和服は上下一連續にして呼吸の運動を妨ぐること却て多し（但洋服と雖も外衣は上下一連續に製すと雖も只戸外に出るときのみ用るのみ）

（第四）洋服は和服の如く長き袖（予は嘗て之を贅澤袖Luxury sleevesと名けたり）及び纒絡する裾又は廣大なる帶等を有せず造搆頗る自に適するが故か手足の運動頗る自由なるは一度び洋服を着用したる婦人の能く知る所なる可し。

（第五）身躰の機器を壓迫することに就ては和服と雖も隨分腹部には種々の紐を纒絡するの風ありて下た紐、帶、帶上げ、帶止め、等少なくも五六本の紐は常に巻き付けるのみならず外出のとき抔には別して衣服の滑り下るを防がん爲め固く之を緊めるが故に恰も姙娠の婦人同樣肩にて呼吸する有樣にて又腹部には容易に手を容るゝとも出來難

き程に緊迫するは日本婦女子の常にして時として食事よ招かるゝことありても之が爲めに充分食事をも爲さずして歸宅し更に茶漬を召しあがる等のことは予輩日本に在りし際に往々見聞せし所にして隨分和服にも其の弊害鮮きに非ずと雖も一般より之を論ずれは腹部を壓迫するに到ては洋服は和服に比すれば其實更に多しと云はざるを得ず然しながら歐米の學者社會に於ては喋々此のコーセットの弊害を論ずるが故に教育ある婦人社會に於ては決して甚はだしき緊迫せるコーセットを用るを見ず實に洋服の缺點は只此の緊迫せるコーセットの一あるのみ洋服を採用する婦人注意せざる可らず（尙文末に於て更に之の點に就て論ず可し）。

（第十八）着用に輕便なると及び經濟上に利あることは洋服は遙かに和服に優るは寄ほ第一回の通信（女學雜誌百廿二號）を見て之を知らる可きが故に爰に之を省く。

○○（第三）衣服の品質は元來衣服の品質には通常（一）温を久しく保存する力及び温を防ぐ力（二）水分を攝取する力則ち蒸發氣を吸する力（三）臭氣及び「マラリヤ」氣を吸收する力等を有するものにして是等の性質に就て最も健康に適する性あるは毛織物の右に出るものなきが故に此の點に就ても無論日本服は洋服に下ると數等なれば敢て贅言するを要せず其他和服の綿を入るゝことに就ても衛生上の害あれども是は他日論ずるときあらん。

（未完）

○女學生論（其二）

星野光太

第二、女學生の責任。蘇老泉の言葉に、天の我に與ふる、豈偶然ならん哉と、若しソレだけの腦力と、好機會とを、私に天が與へたならば、是れは偶然のことではない。若し今、女學生たるものにして此の幸の時運に生れ、此の千載復び得がたきの場合に立つものは、又自ら其の責任も大なるものと言わなければならぬ。ソレ故に、私は、女學生の幸福の大なると俱に、女學生の責任の又大なることを感じます。或は自然に女學生が此時代に出でたとして考へても、又上帝が女學生を此時代に生れしめたとして考へても、此の幸なる時機に感じ、此の惠み深き上帝に對して、空しく此の時機を費さるゝことは出きまいと思ひます。若し此の時機幸福を空しくして、其の勉めを擲つ樣あことがあれば、此れ實に、時世の罪人、又上帝の罪人と思ひます。故に、此の時運に對し、此の惠み深き女學生たるものは、熱心に其の業に從はなければあらぬと思ひ

ます。女子たるものは誠に多い、前に言ふ通り、志があつても學問するとの出きぬものもあり、實に羨やましく感ずる所のものが澤山ある。左れば其の人々の志を全うするのは、今の女學生にあらうと思ひます、其等の人は、事を學ぶとも、業を受るとも、出きなひ、併し今の時にそむかず、或は矯風の事、或は女權を高め様とするのである。右の人々の志を代表し、其人の志を成就せしむるものは、女學生にあらずして、果して孰がしますか、輙はち一般女子の胸に鬱結せし所の、慷慨、悲憤の情、溢れて國民の風俗を進め、女子の位置、道德を高むるの思想を受けつぎ、其の人々の深き願ひを成就せしむる所のものは、今の女學生にあらずして、決して外にはあるまいと思ふ。

今種々なる女學校と云ふものがあつて、隨分善良なる教師もある、然し其の女學校の成立ちを考れば、多くは篤志者の手よりなり立ち居るので、眞に女學の振はざるを嘆きて、之を與すのである。近來は、日本人の手にて、獨立で出きたる即ち此の明治女學校の如き者もあるが、抑も女學校の起り初めと云ふのは、多くは米國人の篤志より成りたるものである。故に、各地方の女學校に至りて、其の女教員を段々と調べて見れば、重に外國の宣教師の手になり、外國の篤志者が與りて力ある學校の教育を受けたるものである。故に、此等の教育を受けたるもの、或は學資が無かつたり、或は學問するの力なき憐むべきものが、特別なる世話深切なる教育を受け、是等の人が、今日は各地方の教官となつて、有益の働きを爲して居るのであります。其外、日本に在る所の種々なる女學校に、教官として務めて居る所のものを見れば、決して金儲主義や、名譽を求るの精神ではない、眞に日本女子の地位を高め、社會に力を得せしめ、道德を進ましめんとの爲めで、實に國を愛し、我日本の女子を思ふ所のものであるのです。然らば、此の篤志者に對し、此の世人に對して、今の女學生たるものは、如何に責任を感じなければならぬと思ひますか。箇樣よ彼等は、外國の爲めに、箇樣に彼等は日本の姉妹の爲めに、心を盡して居る、箇樣に教頭助教は、女子の爲めに犧牲とあつて盡力して居らるゝ、是れに對しても、女子の責任の重きを感じなければならんと思ふ。

殊に今より十年前であつたならば、女子の教育なぞと云へば父兄は以の外の考として、假りに小學校でも卒業させたならば、女子に對する大層の惠みの樣に感じて居た。併し今日で

は、父兄が骨折りて得たる所の金錢で、是非とも女も女學校に遣らねばならぬと云ふの決心を起したでいありませんか。箇樣に父兄は、女子の爲めに盡力なさるゝのである、篤志者も亦箇樣に骨を折るゝのである、內外より我等女學生の爲めに力を盡さるゝのである、又內外ともに我等の卒業を、指おりて待ち居らるゝのである。然るを此の女學生たるものが、何うして怠けて居ることが出きませうか、女學生たるものは、深く此の責任を感じなければならんと思ふ。

尙ほ大切の事は、今の女學生は、將來の女子の雛形であらうと思ふ。鷹の子は鷹、鷲の子は鷲であるから、將來の女子の雛形は、今日の女子である。左れば、一の學校に於て、一番さきに卒業した三四人の卒業生の希望性質を見れば、其後から出る人の性質希望を略知ことが出きます。男女の學校に拘はらず、大抵其學校の敎師とか、先輩とか、卒業生とか云ものは、みな其氣風をあとに殘すところのものです。故に今の女學生にして、不勉强なるか、不從順であるならば、必ず之をあとに遺すのである。今日の女學生は、將來に餘程の影響を及ぼす所のもの、實に愼み誠めざるべけんやです。殊に今日の女子が、將來人に嫁して、一家の女王となりても、亦學校の敎師となりても、亦慈善に從事するものとしても、總て今養ふ所の力をして、全社會に及ぼす手段となるのです。源泉が淸ければ、末も淸い、今養ふ所のものが淸いなれば、或は學校に、家庭に、社會に、淸き流れを充滿せしむるに相違ないと思ひます。

今ま東京市中を往來する所の無數の女學生は、斯くの如くに己れは幸福なる者と感じて居らるゝか如何に。此の如く、己れの責任の重大なるを感じて居らるゝか如何に。私は、女學生徒諸子が、此の幸なる時運に逢遭したるを歡び、此の幸なる社會に立てしめられたる所の上帝の恩德を感謝し、此の責任の重きを省みて、十分に熱心を注ぎ、天晴なる女學生として何卒將來の雛形を今日に遺されんことを切望致します。果して此の如くならば、私の朋友なる巖本君、その外故人たる木村鐙子の志を繼ぐことが出きやうと思ふ。且つ又明治女學校が府下に冠たるものともなり、明治女學校の學生は總ての女學生たるものの鑑となられんと私の冀望であります（完）

批評

○文明の母

本月十八日、文明の母と題する新雜誌の第一號出版せらる。

中村一氏發行兼編輯人たり、小西石造氏印刷人たり、社は府下深川諸町十三番地に在りて生文社と稱す、毎月一冊發兌、一號紙數六十二頁定價正九錢の由なり。文明の母發行の趣旨中に云く、

嗚呼何ぞ圖らん、其教育を受けたる女子にして、尙ほ且つ亂暴を活潑と誤り、倨傲を高尙と信ずるものあり柔和を卑屈と爲し温順を固陋と見做す者あり。日本固有の美德良性をば全く忘却し去つて、唯汲々西洋下等婦人の顰に倣ふものあり。徒に空理空論に擱て、大切なる一家を調理するの職分を擯斥する者あり。自己に接する朋友同輩の間には、喋々ミル、スペンサーの女權論を評論しながら。自己と語るの男子には、木偶の如くに思意さるゝ者あり。しかのみならず、衆人の前をも憚らず、熱心に補助の批評を爲す者さへあり。皇后宮の思召書をつきつけて、口角沫を吐きつゝ、洋服嫌ひの父母に洋服を催促するものさへあり。甚だしきに至つては、深窓の貴女にして、尙ほ言ふに忍びざる汚行を爲す者あり。朱門の令孃にして、且つ聞くに堪ねざる醜聲を洩すものあり。斯の如きは固より少數の婦女子にして、殊に喋々するに及ばざれども、彼等は前已に述べたるがごとく、必らず幾分の教育を受けたる者なり。嗚呼全然教育を受けざるものに至つては、果して如何なる形態ぞ。請ふ吾人をして少しく之を探究せしめよ。否吾人をして決して之を探究せざらしめよ。

然し吾人が視察する所によれば如此きは甚だ少數なり、若し教育を受たる人間に尙ほ惡德ありと云ふとを慷慨せば、先づ以て今の男子の行狀に付てこそ慷慨すべき筈なれ、然るときは文明の母よりも寧ろ文明の父を發行せらるゝ方更らに必要と存ず。

扨て其趣旨とせらるゝ所ろの決局に云く、

概して之を論ずれば…………　極めて必要にして嘗て抛棄せられたる女子教育は、近來頻りに勃興せり。その教育の方針は兎も角も、益々隆盛に趣かんとするの勢あるは、實に祝賀すべきなり。而して婦女子の智識令德も、前日に比して幾分の發達上進をなしたるは、決して疑ふべきものなし。然れども比較上、尙ほ野蠻の母ともいふべきものゝ多數を占むるは、亦た決して疑ふべからざるの事實なりとす。然らば則ち我が日本人箇々の幸不幸は言ふに及ばず、我が日本國前途の情態に至つても、必らずや第一世ナポレヲンに問ふ迄にもあらざるべし嗚呼(文明之母)の愛臨に發行せらるゝ、豈に偶然ならんや、豈に偶然ならんや。

眞に結構のお心掛なり、吾人は一個の友人を得たるとを喜ぶ。

(81.)　眞壯婦　(中本一册百四十八頁定價四十錢 發行東京通四丁目 春陽堂)

此書は小室重弘氏の著にして、全卷を十四章に分つ、云く女權擴張の時機至れり、新事物に付ての注意、婦人外部の改良は恃むに足らず、社會の事業婦人の力、暗濁の洲より婦人を救ふ者はそれ唯宗教乎、政治と婦人、社會の舞臺に上れ、社會の進步に關する早婚の弊害、婚姻及び夫婦、快活の女子卑屈の細君に化す、舅姑及夫の兄弟姉妹、新日本婦人の業務、東洋道德の缺處、詩歌音樂及び繪畫。文章流麗にして情趣多く、近著中の出色あるものなり、特に議論惣じて道德を重んじ、頗ぶる時弊を直言する所あり、而も言まわしの面白きによつて左程に惡まれもせず、愛敬ある才筆と云ふべし。

愛敬すべき我々の姉妹よ、卿等の名譽はかの珊瑚の珠、金剛の釵にあらざるぞ、其綺羅の裳、錦繡の衣にあらざるぞ、其花顏、月眉、雲鬟、雪膚の爲めにあらざるぞ、其人品高きの人に嫁し、かの浮雲の富家に歸ぎしが爲めにあらざるぞ、其能く舅姑に閉口し、夫に平伏し、塵一片の上にも、家事經濟的の注意をなすが如きのみにあらざるぞ、記憶せよ、婦女が天下國家の隆替盛衰の上に隱然として大勢力を及ぼすとへ猶ほ夫の暖春の氣の如きあることを暖氣は音響なく香

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

氣なく常の如くならず常の如くならず洸々焉たり穀々乎たり何れの時に來り何れの處に達するの迹なく而して窓を開らき世間を見渡せば柳は烟の如く花は雲の如く蝶の群ひ燗殘たる春色人を醉はしむるに至る記臆せよ記臆せよ。
（六十頁）

女學社會近來名著少なし、此書の如き彼の情交史と共に能く讀者を悦ばすもの也。

○文覺上人勸進帳

依田百川河尻寶岑兩氏の合作にて、都合六幕の院本に仕組たるものなり。古雅優美の所ろは確かに見ゆれども、例の如く鼻をすゝるほどの悲曲少なく、概評するに劇味豐かならざるが如し。特に第百八頁、紀州那智山の瀧に於て安達藤九郎盛長が文覺に見參する條、

一旦思立ながら半途にして止むが如き偽法師の假令ひ院宣を乞ひ受くるも何の用にか供すべき我れ既に身命を拋へり今一日にして志を變ゆるは大丈夫の爲さゝる所ろ重ねて問答無用に召れ

と思ひ込だる勇僧の詞に盛長是までと

此處ろ少と折合宜しからねども先づ以て盛遠が未だ文覺と爲り了せずして所云る遠藤武者の昔しを現はしたるとして見んに、第百九頁に至り、

是に付て佐殿へ山僧が一つのお賴み御承引下されたし

ナニ我が君へお賴みとは

此事首尾よく成就なし源氏の御代となりしならば一寺を建立下さる樣前以て佐殿の御承諾を願ひたし

と實に下らぬ豫約をして扨て「人皇四十六代の御宇に」とか何とか申す長々しき講釋を始めたる、尤も可笑しく思はるゝ而して終に、

いゝかゝゝゝゝゝ
此事御承知下さるならば佐殿の御賴み必らず仕負ふせ申すべし

と云ひたる、是にて上人の價を下ぐる非常なりと云ふべし。

次に僅かの事なれども凡そ改良作者方の注意に迄て申上げたき件あり、例するに本書第四十八頁に、

衣　なんの〳〵夫が誠の夫婦の情揃ひも揃ふた一對の子を持たのは拙が仕合然しあんまり中がよすぎると渡殿の體の爲に（と兩人顏見合せ）

オホゝ　兩人　オホゝゝ……

又た第七十五頁、「渡立上つて袈裟の手を取り」次に

渡　サ來やれ、

袈　さうしてどこへ、

渡　ハテ身共が寢所へ、

如斯き辭句は士君子淑女の嘔つく斗りに感ずるものなり、乞ふ一切之を止めよ。

扨て大したる落度右の二ヶ所を除きて本書を惣評すれば、趣向麗壯、言語高雅にして一種言ふ可らざるの味ひあり、兩氏の才亦た多く得がたきもの哉。

○近時の女學論

(一)。穗積博士、婦人の勇氣

去十日發兌羅馬字雜誌第四十一號に、博士穗積陳重君が演説せられたる「婦人の勇氣」の續稿を出す。女學雜誌第百廿七號に批評したる其の前部に引つゞき、今回は

婦人の勇氣は塲合によりて夫々に形を違ふべく、例へば人の子となり、姉妹となり、學校の生徒となり、妻となり、母となり、お婆さんとなりたる時、若夫々の時に要する勇氣ある如しと云ひて、種々の面白き説法あり。最後に學者の妻と爲りたるものゝ勇氣を現はしたる實例として、彼の萬國公法の著者グロウシアスを牢獄より救出したる夫人、及盲目なるフホーセット氏を助けて經濟書を作りたる夫人の事を擧たり。

此上博士に願ひたきものは、斯る勇氣は果して何處より得べきかと云ふの説明なり。御演説の如く世には知る計りにして行はざるものあり、之を行わさするが則ち其勇氣なるべし、然し勇氣の必要を知る計りにして亦此勇氣を出し得ざるときは何如すべき、次回には此邊の御講釋を仰ぐもの也。

(二)。植木枝盛君、子婦と舅姑と別居すべし

去十九日發兌國民之友第三十二號に、右の説上篇を載たり。婦の舅姑に事ふる父母に事ふるが如くすべしと云へる東洋の舊敎を一方に置き、婦は其の義父母に面會す可らずと云へる諸蠻民の風習を一方に置き、兩の僻見をして互ひに鬪はしめて、夫子循々焉裁斷あり、云く

子婦舅姑の同居は新事物の改進を妨ぐる事

子婦舅姑の同居は親子委頼隱居早婚の害を來らす事

吾人は徹頭徹尾贊成を表するもの也。

叢話

○婦人衛生一斑(妊娠養生の事)(其二)

櫻井郁次郎述　佃與次郎筆記

妊娠中容躰の變化の事　妊娠して居る間には、色々變躰のとがあります、ソレも各々人によりて違ひます、例へば、甲の人は妊娠して、大層からだが、壯健になり、調子が能くなつたと云ひ、乙の人は懷妊してから、頭痛がするとか、息切がするとか、腰が痛むとか、食物が食べぬとか、種々の訴を起すものもあります。又妊娠の始め、或は其の半、或は終りと、時の進むに從て、容躰の大に變ずるものがあります、則ち最初

は食事が出きないと云ひ、半は頭痛がすると云ひ、仕舞には足がつれると云ふ樣に、樣々に變じて往くのもあります。人に因つて違ひ、又時に因て懷姙中の有樣が違ひまするから、之を等しく定りたる所の規則によりて、何月日は斯くせよと云ふ如きとは、到底出きない。仕立屋なれば、五尺の人は是れだけの幅で、何れだけの寸法であると、其寸法を等しく當てはめるとが出きるが、所謂活物に就て、生活の有樣に就てはナカ／＼此の一定の寸法では出合いません。

養生とは食物のみに限らざる事　一體に我國の人は、養生法と云ふの主意を考へ違へて居ると思ふ、其は一概に養生と申せば、食物と云ふ樣に考て居ます。ソレ故に、每に私の診察場などで、容體を演べきらぬうちに、食物から問ふ樣な譯です。申さば嘆かはしき次第です、一體食物の善惡を擇ぶとあとは決して養生法の主意ではありません、或は永ひ間醫學の進まない所からでもありませうが、日本には禁忌みと云ふとがある、脚氣ゑは小豆はよろしい、午房は毒だと云ふ樣な六ケ敷い講釋もありますが、元來食物に毒は無き筈です。食物と云へば總て無害のものである、其中只撰むべきものと捨てべきものと、食ふて要のなきものとがあるだけに過ぎません。

妊婦養生大要の事　然ば、妊婦の養生と云ふものは如何なる事柄を申すのであるかと尋ねましたならば、最も簡易なる容易き一語を以て說明すことが出きます。則ち、「平生の習慣を頓に改むるなかれ」と云ふとであります。是れは、食物から、衣服から、運動其外のとに就ても、悉く其通りで、懷妊したから平日身體を動かしたものも動かさない、又平日は粗食して居たのが、懷妊したからとて俄かに肉食をなし、牛乳とかソップとか用ゐれば、身體の釣合を大に失ひます。其外、厚着をしたりする樣なともあるが、其の平素の習慣を頓に改むると勿れと云ふのは、確言と云ふても宜しい。其外に、清潔と云ふとがある、清潔とは、部屋も奇麗に、身體も着物も、奇麗にすべきと。又新鮮の空氣と云ふて、塵芥などの立たざる空氣、是れが大切です。（未完）

○子供の養育

クラー、ホイトチー、夫人
みどり　譯

巖本君信愛する足下此子供の教育と題する小篇を君が秀逸なる雜誌に寄せ侍るに付ては之を御用ひあるとも若くは棄て玉ふとも一に君が最も良しと考へらるゝようゝ取計ひ玉へんとを願上參らするなり。斯る問題に付ては故民の著者とも申すべき人々の手に成れる書籍數卷を所持いたせば君が讀者に利益ありと思し召さん限り左に申す如き主意に付きて此の書中より拔萃をいたし差上んとは妾が希望と存じ候、即ち

子供の保姆。子供の自治の心及び眞實の性。子供の病に關ハる種々の問題

大凡そ世の中に母たらんものは、其が氣附の下に任されたる

優しき小供等に對して抑も何如に多くの責任ありやと云へるとを深く承知するは、眞に大切の事と思はる。而して斯く考ふるに付ては、此子供等に程好く衣物を着せ亦程好く食物を與へ、凡そ肉躰の上に要する總べての者を供へたらんのみが彼等の責任にはあらず、更らに一層深く思はずして止みがたきは、彼の子供が向來の道德の性質ならびに靈の上の氣質などは全たく其の母の手によりて何如にとも爲るべしとの事を思ふに在るなり。左れば吾等が墓の內に埋められたるのち迄も久しく世に生存ふべき此の子供等の性質を造るは一に其の母の手の上に屬すと思はんと、何如に嚴肅なる感じにてあるらん。扨ては凡そ子供を擧けたる母親には、其の出產と共に神の命令降りぬ神云ひ玉ふ「汝ぢ此子を取て之を我が爲めに養育せよ」と、夫故へ吾等の子供を養育敎練するは、只だ吾等自からの樂しみにより又は向來の見込ありてには非らず、寧ろ吾等が此の子供の母たらんよりも、更らに多く之が父と爲り玉ふ彼の神彼の天の御爲にこそ之を敎練養育いたすとなれ。左れば、此の子供を養ひて吾等が之に與ふるはたゞ其の肉躰にして遂に亡び失せぬべき部分なれども、人間本身の核とも云ふべき彼の永久に亡びざる眞實の部分は即ち神より出るものにて亦た神の御質を受たるなり、故に我等は我子供の中に神の御質の一分を頂きたるとを謹んで感謝し、能く心して之を養ひ、他日之を其儘に損なはずして神に返し奉つり、吾等我子と共に神の御前に立ち「神よ我と、汝ぢが我に賜はりたる吾子とを覽玉はれ」と少さかも恥づるとなくして申し得るようにてありたき筈なり。

左れば吾等が日々の祈りと勤めは、何卒眞實正直なる母となりて、我が子の肉躰上靈心上道德上の敎育に關はる責任を盡すに熱心なるとを得んとすることとなり。

他國にても然るとなれども此の日本に於ても亦た、大抵の家〳〵にはシステム即ち一家內の政事と申すもの丶行はる丶は甚はだ少くして、何事も其折々偶然の心得よて爲さる丶ように覺へ候、夫故へ母親の威權もしくは母親の政事と云ふ如きもの丶行はる丶とは亦至つて少なきように存じ侍る。夫故へ子供は己が勝手に遊び食ひ眠り外出して、向來一生の善事幸福とも成るべき規則に頓着せざるとのあるよう見受候。抑も此處に或る庭造りありて其仕事を行ふに一つの規則取締ようのものに注意せざるとあらんには、吾等は太く之を非難すべし、凡そ庭造りとあらば、其の為すべき仕事にそれ〴〵時を定め、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜草を拔き、惡鳥を追はねば成り申さじ、左なくては美しき花または果物を取らんと覺束なし、夫故へ彼は木々の病ひを見出し、隱れたる葉虫をさがし、害ある昆虫を求め、夜も晝も勉勞して少しも怠たらざることなり。然るに吾等の如く價付がたき程に價ひある死せざる作物の保育を任ぜられたるものが、彼の朽ち果つべき菓物の爲に心を注ぐ庭造りにだも及ばざらんには之を何如んと申すべき、嗚呼吾等を愛する所ろの子供の心の中には何如に多くの見へざる惡しき習慣の種子が播かれたるよ而も此は其初めに氣附きて取去らんには最と容易く取去らるべきものを、嗚呼又た何如に多くの惡鳥は假りに友人の姿となりて吾が愛する所ろの子供を迷はすよ而も此は皆な吾等が追退けて子供に近づけざるように爲すべきものなるを、嗚呼又た如何に惡計なる疾病はそと吾子の初生にひそみ入りたるぞや而も此は只だ母の注意深き目によりてのみ見出さるべきものなるを、實に此等は皆な母親の盡すべき責任なりけり。(未完)

○島田三郎君來報

婦人洋服　コルセット有害の事

在倫敦島田三郎君來信の中ち、差支なき部分丈を左に掲ぐ。

(上略)小生無事滯英ッきたる見物流行は一切之を止めヒタスラ勤學仕居候暑中休暇にて人々ロンドン府外に出で居り候間今日迄は尋ね候便は少なく候得共先づ日月は有益に送り候と自信仕居候過日申上候カーターと申す米國婦人云々(此處既に前號に掲ぐる者と重複すべきに付略)頃日米國婦人より日本服を變ぜざる樣との忠告ありたるよし此事一理ありと存じ候へ共米人は日本服の便否を自驗せし上斯く申したるに無之但だ其流行に誘はれ候を見て此說も出でたりと存じ候小生の考にては今日歐米の婦人服は其儘用ひ候事は如何と存候得共日本服は步行勞働に不便にて長くは用ふるに足らずと存候且安座せし風習は遂に改まる者なるべし故に歐米の衣服を其儘用ゐるも不可日本服を替へまじといふも允當ならず歐米人の既に改めんとする點を參考し費用少く衞生に害なき者を用ゐるの注意專一と存候日本の製服職人は大抵パリー風流社會の風を誘入するならん(是れ政府の誘引にて重に交際官の歐米風を觀察するに由と存候)今日學校等にては此風を取らず窮屈ならずして儉質の衣服を用ゐば一擧兩得と存候既に米國にても御存の通袖の濶き飾少き衣を用る組合有之ニューヨークにては此種類之仕立見

世別に有之候コーセットハ日本に用ることなき樣致し度候コーセットの作り方にて其人の身躰により害なしと申す說も御座候得共人の社會に立つは一人の便否より考へを立つべきにあらず一般に及ぶ影響より利害を考へ候事是亦必要の儀と存候例へば飲酒は人によりて害なし却て益ありなどと申說も今日歐米論者中に有之候得共其一般に及ぶ影響は大害あり故に此害を防がんとせば有志者は自ら之を禁ずるを人類の一義務と存候如くコーセットの如き盛に日本に行はれば一般衛生上有害たると疑ふ可らず故に斯風俗を誘引せんとせば先づ是等顯著の者を廢するを社會に對する一要事と存候（下畧）

九月八日

巖本愛兄　　三郎

○白痴敎育の事（其二）

リッチャーヅ氏は、之より追々にシルベーナスの敎育方を進め、遂に實物を見せて漸くに之を導くの段に至りたる事を述べて云く、

斯て余は實物敎育を始じめ、シルベーナスを伴ふて每日靴師の許に至り靴製造の趣きを見せたり。シルベーナスよ此は何なりや、と問へば、彼は答へて「靴」と云へり、誰が之を造りしやと問へば、「靴師」と答ふ。更らに麵包を取つて、之は何なりや、と問へば、彼は答へて「麵包」と云へり、誰が之を造りしやと問へば、「ベッチェー（娘の名）」と答ふ。」他日余は林檎を取り、之は何なりや、と問へば、彼は答へて、「林檎」と云へり、誰が造りしや、と問へば、「知らず」と答ふ、靴師が造りしにては無き乎と問へば、「否」と云ふ、ベッチエーにては無き乎と問へば、「否」と答ふ。此に至つて更らに一段の開發を與へたり。

余は或る朝たシルベーナスを二階に連れ行き、東天に登る太陽を見せて之に敎ゆらく、

彼れは何ぞや、太陽と云へ

太陽、太陽と彼はくりかへしたり、余は重ねて、

誰が太陽を造りしや、神と云へ

神、神と彼はくりかへしたり。余は則ち授業を畢り、シルベーナスを殘して下に降り、彼には姆を遣いし余は朝飯を畢りぬ。斯て后ち再び二階に上り見ば、シルベーナスは窓ぎわに傍ふて太陽を望みつゝ、他の子供等を集めて敎ゆらく、

チャーリー、彼れは何ぞ、太陽と云へ。誰が太陽を造りしや、チャーリー、神と云へ、

嗚呼彼は既でに神を知るの教師とは爲りし也。斯て或る日、余は林檎を取り、多くの子供に見せつゝ問ふらく、

此は何ぞや

林檎（と皆々答へたり）

誰が造りしや

惣ての子供皆な默して答へざりしに彼のシルベーナスは微笑して言はんとするもの〻如し、余は、

シルベーナス、此は誰が造りしや。

神

と彼は答へたり、嗚呼彼の蠢爾たりき白痴は遂に此の推知力を起すに至りたり。斯て又一日、他の子供の母親來りて之に下衣を着せつゝありしを見て、シルベーナスはぢつと余が面を守り、「私には母があります乎」と問ひたり、余は涙にむせび乍ら早々に手紙を認めて彼が母を召びたるに、母は直ちに來りて其邊りを見廻はし「何處にシルベーナスは居る乎」と尋ねたるに、シルベーナスは其聲を聞て走寄、

此處に居ます、此が母上か、オー母樣お目にかゝりて喜ばし、

と云ひたり、嗚呼失はれたる一人の天使を得たり。

讀者深く一考すべし、彼の感じなく動きなく言葉なく其一身を辨ぜず其母をも辨ぜざりし彼のシルベーナスは、遂に如此愛すべき英兒とはなりたる也」。リッチャーヅ氏はシルベーナスに血縁無關係の他人たるなり、シルベーナスは極愚極鈍の白痴たりしなり、而して其恩愛なる教育は遂に如此く之を變へたり、世上の父母たらんもの須らく深く思ふべし。

○功利と美麗

元良勇二郎述

去十八日哲學博士元良勇二郎君が數寄屋橋會堂に於て演説せられたる功利と美麗 Beauty and Utility の説は目下切要の問題に關係あるのみか亦女學の爲に極めて面白き注意を與へたり、因て今ま其の大略を左に抄録す。

ソクラチースの言葉に Utility is Beauty 即はち功利は美麗なりと申しましたが是は當れるや否や少こし考へねば成らぬとです。元來世の中には元因決果と申す一の大法がありまして萬事萬物悉く之に支配されて居るように見へますが、切て世界の何物も皆な之に支配されて其他には之に似たる大法あらざるかと問ひますれば必らずしも左樣にてはあらざるよう思はる。先づ元因とは先に來り決果とは後に來るものにて因果の關係は即はち前後の關はり合のようなるものゆへ故學者は元因決果の規則によりて時の前後を知ると申したるほどであります、然るゝ世の中の出來事を見るに元因後に來りて決果先づ先に現はるゝようの趣きもあるです、例へば米國に參りたいと云ふ心が先きに發して而して後ち太平洋を横ぎるとでありまするが此の太平洋を横ぎると云ふ元因が先きに行われて後ちに初めて米國に達すると云ふ決果が起る此に付て考ふれば先づ洋行志願と云ふ元因は寧ろ後に廻りて決果の如きものと相成つたるにてある。左れば世の中に元因決果と云へる大法の行わるゝ外に更に一種の他の大法あり之は果して元因決果の法と相違するや否やを知らねども先づ吾々が通例決果元因と稱するものとは現象の違つたるものなり故に之を別稱して目的と方便の大法と申します目的は後に來りて方便は先きに來る即ち元因が初めに起りて決果が後に生ずるとは丁度表裏を爲すものと見ゆるとである。故に凡そ智識と云へる性質を有する彼の人間及び其以上のものありとせば即はち彼の天の使及び上帝に至るまで凡べて智識あるもの〻間には目的と方便の大法行われ此等の智ある物を除きたる一般の自然物には即はち元因決果の大法行わるゝとである。

扨て箇樣に申置て彼の功利とは何如なるものぞと云はゞ功利は即はち或る目的を達する爲めの方便となり其方便となりて夫々の功能を現はすを云へるとにて即は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ち或る物事の役ゞ立つと云ふに同じきことです、蒸滊船は米國洋行の爲に功利を呈はし蒸滊車は横濱出港の爲めに功利を呈はすことです。然らば美麗も亦た斯の如きものかと問ふに之れ大ひに考へねば成らぬことあり。

成程美麗と云へるものも一種の方便となりて物事の役に立つです。近來ダルヰンなどが出でゝ追々と勢力を得たる進化論の中にセキウスアルセレクション即はち雌雄淘汰と云へることあり之は御承知の如く雄が雌を悦ばする爲めに或は羽を飾り或は毛を飾りて其の身躰に美麗を現はし先方の心を迷はさんとするものにて此の美麗と云へる飾りは他の愛を引く爲めに功利となるです。又た此頃ろ日本人が西洋各國と交際の上よりして家屋も道路も衣服も食物も成るべく西洋風に致し其の内部は兎も角先づ外面丈けなりとも飾り造りて西洋と同じく見せんとするは丁度青き木の虫が青くなり赤き葉に住まふ虫が赤くなりて其生存を保つと均しく亦是れ西洋人と競爭の上より先づ彼れと同じき仲間の交際を爲して之に敗らるゝの不幸を避けんとするの志に出でたり即はち此の外面の飾りは日本人が生存し外國人に相伴はんとの方便に使はるゝものにて斯様なる目的に對して一種のお役に立つものである。斯の如く美麗と云へるものが物の方便ゞ使はるゝこと往々之れ無きゞあらねども斯ては美麗の本質を損し遂には尤も厭ふべく嫌ふべき飾りと爲り了つて眞の美眞のビウチーを呈すること能はざるに至るです、美麗は功利の如く方便に爲つて初めて役ゞ立つものにあらず美麗夫自身に於て人の目的と爲り夫自身に於て德あるものである。

彼の道德智識美麗の三つの者は鼎の如くに三立して決して劣り優りのあるものにあらず恰かも政府に立法司法行政の三部が獨立してそれ〴〵に功を爲す如く彼の道德智識美麗の三つも亦た各自に獨立して各別に功を爲すものである。而して此の三者の盛衰は宗教に大關係あり宗教は即はち此の三の者を總合したるものです今日の所云る宗教は啻に道德の一つにのみ關係する如くに思はれて居れども蓋し誤まりにて完全の宗教は彼の三者に同じき關係あるです。左れば美術は宗教の盛衰によりて均しく亦た盛衰したることあり智識の進退によりては決して進退せざりし如き實例古今に多くあります何れも皆な美麗は方便にあらず夫自身が既に目的と爲り夫自身が獨立して其德を現するの質あることを證するものです。

日本は美術國と申して外國よりも甚はだ賞賛さるゝことであるが此の美術は何故へ左様に此日本に於て發達したるかと云へば申すまでもなく之は德川時代太平の御世に於て多くの人々が衣食にも窮せず名利をも貪らずして只だ美麗と云へるものをトントの目的にして力を盡したるゆへである左れば此の如き時世が過去つて今日の如く人々たゞ衣食名利に奔走するか若くは美術を糊口名利の役に立てようとするときは最早美麗本然の性質を損したるものゞて迚も十分に發達することは出來ません夫故英國のアルコック氏は日本に於て美術を隆盛ならしめたるの事情は最早今に於て消滅し去つたりと申しました。又た昔し尤も美術の盛んなりし希臘に於ては何如にして左程に隆盛となりしやと考ふるに之は當時の人々がアイデアルスタテウと云ふ理想の人像を製し凡ゆ完全無欠にして之に越すところの人躰はあるまじと云ふを考へ出して形に造りたるより初まりたり之も決して何者かの方便にせんとの企に出つて成りしものではなく即はち之を以て躰育の摸範としたるものである。降つて彼の暗黑時代と稱する羅馬法王の世と相成つては其比をダークエーヂと申すほどにて固より智識は至つて乏しかりしにも拘はらず美術は甚はだ盛んになつたり之は殿堂會堂などの中にマリアが基督を抱くの形とか又は終りの晩餐の有様とか云ふ如きものを想像して之を像に彫刻したり畫に書き現はしたより起つたることである之も中ゞは利益の爲にしたるものもあらう又靈しひの救はるゝ爲にとて爲したるものもあらうが其多くは之を目的として即はち美麗を求むるの目的よりして造り出したるにて決して之を何かの方便にしたるにてはない、マイケルアンジエロやラフハイロの如き大美術家が現出して大ひなる品物を殘したる皆な之れならんと考へらる。日光に日暮の門と云ふものあり之は若し此の門を見て其の美に注意するときは身外萬事の關係は一切忘却されて只管ら其の彫刻の美麗なるに見とれ遂に日の暮るゝをも知らぬとの意味である由し實に美術にかなひ美麗にかなひたる名前で凡ゆ美と云へるものに對する人間の感にはいつも如此あるべきものである。

左れば美麗は功利にあらず物の方便と爲り何かの役に立てられて初めて其德を生ずるゞあらず美麗は美麗にして夫自らの德ある者故之は物の方便となるべからず即ち物の目的として殊うとまるべきものであります、夫故へ今日の演說の大主旨は一國の上に取ても一身の上に取つても皆な道德智識美麗の三者を同じきように備へねば成らぬと云へることを論じて扨て教育の上に於ても美麗の觀念を養うことを智育德育と同様ゞ重んじなければ成らぬと云へることを說き以て現今の問題と爲り居る美麗と申すものゝ性質を明らかにいたしたる積りであります。

小説

○哲女の巻（第六回）　夢浮橋（中）

月の舍しのぶ

城の崎の湯を距る四里津居山の港と云ふあり、北海に濱して波濤常に暴らく、遙かに望めば雲水模糊只だ白帆の出沒に髣髴の界ひを現じ、近くは激浪狂奔して岩頭ゞ千萬の玉を散ず、

亦是れ嚴壯の一奇觀なれば、浴客はつれ〴〵のまゝ此に遊びて風景を賞するもあるべし。秦の親子は今日も彼處に一遊して、日晩るゝ前え漸く旅宿に歸りたるが、浴みして後ち無極は横に臥して新聞紙を眺め居り、好嬢は少し離れて父の洋服を鄭寧にたゝみつゝある、

お父さま、お勞れ遊ばしたで御座いませう。

無極は新聞紙を見凝めて聞えざる樣なり、好は強ひて再たび問ひかけもせず、序に下衣をも方付て彼方の戸棚に入れ了り、靜かに父を眺むれば、父は尙ほ依然として新聞紙を見凝たり、

お父さま、お勞れ遊ばしたで御座いませう。

無極は新聞紙を細かに疊みて、突如と居直り、無言のまゝヂツト此方を見たるが、未だ再應の問を聞かざるが如し、而も顏色特の外惡しく、眉の邊りに極めて重き絲を張り詰めて、眼光憂れわしく輝やいたり。好は之を見て一層に心配らしく、父の面てを守りつゝ少し膝を進ませて、

お父さま、如何か爲されましたか、御氣分が惡うでも居つしやいますか。

不思儀なる哉無極は、兩眼に淚だを潤ほし、好が顏をしけ〴〵と見て、思はず一滴を落しぬ。

イヤ、どうも無い。

デモ大層お顔色が悪う御座いますし、夫に何だかお心持も善ないようで居らつしやいますから、いつそモゥお休みなさいませんか、而して少とお御足でも揉ませうか。

有難う、然し別に何とも無いから矢張斯して話して居らうよ、何んだかモゥ暗くなつて心細いようじや無いか、燈火をつけて呉んか。

ハイ左様いたしませう。

父の樣姿の變りたるを憂ひながら、言ひ付りたる用事に心勵みていそ〳〵と立ち上り、手早くラムプに火を點して復たび父の傍らに居寄り、

夫ではお父さまお肩を揉ませう。

イヤ斯して居る方がどうも能ようだ、マア搆わずに置いてくれ、少つと學校の話しでもしてお聞せナ。

左樣で御座いますネー、別段お面白ひお談しも御座いませんが…アノゥお父さま、モゥ卒業が來年になりましてよ。

ソウジヤノウ、來年の夏か、どうも早いものだ、能マア勉強して呉た、此上とも何でも骨を折て父に代つて呉なければ成らぬが、然し餘り勉強が過て病氣にでもなるとイカンヅ、エ、エツ、モゥお前ひとりだから。

好はアット泣伏したり、無極は其背を撫でつゝ、初めて左手にて己が兩眼の涙を拂ひ乍ら、

ア、切てお前に母親でもあつたらノゥ、最とよくして遣れるのだが、何分己一人で氣が注んから勘辨して呉れよ、然し能くマア斯樣にあつて呉れた。

好は歔欷ながら何やらん言ふ如し、聞えざれば、エ、エと問かくるにつけて、彼は父の膝に其面てを載せ、半ば泣き半ば鼻をつまらせて……

お父さまは…お母さんもなくツテ、御不自由ばかしてすノニ、私しやお哲ザンの事を思ふて……其樣に御不自由をして下さるのに…私は少しもまだ御安心をおさせ申すとも出來ませず…御心配ばかしてもしや御躰だに……もしや御病氣でも出ましたら…どういたしませう………

能く言ふて呉れた、が親甲斐もない親で、イクラお前に心配させるか知れない、お前ゑ善い婿を取つてと、色々心掛た事もあつたが…

どうぞお父さま、そんなとは決して仰しやつて下さいますな、私しは一生お傍に居つて、切て少しでも御安心をさせ

申すとが出來れば、それで……それで……

有難いがそれては異ない、今ま言ふて置から覺へてお出でよ、何でも男子を擇むにはナ、先づ其心掛の清いものを求めなくてはならんよ、何れほどの英才でもナ、若し宜しからん事を企てたり爲たりするものであつたら、一生涯決して幸福に暮すとは出來んものだ、能く其心は清いか正ひかと吟味してナ、其上で學才なり器量なりを見るが善よ、然し人並に外れた樣姿の人は、何が元因で其樣だと云ふとを善く見てからでないと、決して初めから慕うものでないぞ、エ、分つたか。

ハイ、よつく心得ます、ですが何卒早くお哲ザンの身が方付まして、お父さまのお心が安まれば宜しう御座いますに、まだ矢張り元のように男らしひんで御座いますか。

アレカイ、どうも何んだかノウ。

ナゼまあ、そんなに居らつしやるのでせう、少しはお父さまのお心が分りそうなものに、ホンに〳〵アナタあまり非道いでは御座いませんか。

然しお前はどうぞ哲と仲を好して、始終おれを助けて遣て呉れろよ、萬一己が死…死んだとしてもナ。

それ、それほどにお父さまは思ふて居らつしやるのに、餘まりと云へばお非道いですよお哲ザン…仰しやるまでもなく切度始終心掛て交際をしまして、切てはお父さまが之ほどに思つて居らしたと云ふ丈けでもお知らせ申したい、私は毎日〳〵の祈禱にどうぞお哲ザンが直るようにと、一日でも祈りませぬ日は御座いません、ホンにお父さまのお骨折は何れ程だか知れませんに、ナゼまあ何日までも〳〵そんなに居らつしやるのでせう。

イヤ、全く己れの教育が惡くてもあつたのだらうヨ、アレモ不憫なものだよ。

好は咽びて再び泣出せり。此時スルリッと障子の開ひたるに、ハット無極は仰天して後りへを見反り、

チ、ツ、姉さんかエ。

チホ、大層おびつくり遊ばして失禮いたしました、夕飯をお上りなさいませぬか。

美妙齋著　さすがに草紙

蘇格翁著　ケ子ルチルス

餘白なきに付不相掲。

佳傳

萬國婦人禁酒會々頭ウイルラルド女史

フランセス、イー、ウイルラルド女史の畧傳は嘗て本誌第六十七號にも掲載したるとなるが本年出版の米國著名婦人傳此頃到着したるに其中ちケアーサンボルン孃の筆に成りたる女史の傳あり一層細密を覺ゆるに付更らに左に其の大躰を叙ぶると云ふ。

女史の家には是迄で善き祖宗の多かりしとなり、或はハーバード大學の校長となりしもの、同副校長となりしもの、或はヲールドサウス教會の牧師と爲りしもの、バンカーヒル紀念碑の建築師たりしもの等其の血統に存したりき。而して女史が父はヲハヨウ州のヲベルリンに移りし以來、西部諸州にて有名の人となり、凡そ政治農業教育出納などの事柄に關しては常に衆に先んずるの率先者と爲りき、母は今ま尚ほ存せらる丶善良の婦人にて、子供の教育には余程掛念せられ、特に女子の教育には世の習はせに反して大に力を盡されたり、左れば嘗て此の母の言はれたる語ばに、

女子教育によりて自然の標準を其元に復さざる可らず、思ふに女子の感化と自由とが更らに行はれたらんには、現今の社會に存する害惡の過半を治療し得べき泉を得たるに均しからん、故に若しも女子の欠點が改められたらんには、之によりて人間の希望熱心中の最良なる目的を得らるべしと思はる、左れば人間の兩々(男女)もし共に發達せば、現今世界の學者を惱殺する大問題、「靈魂の力は何故に斯く望なき迄に道に逆ふ乎」と云へる疑案を解くとを得べし。

此の母ありて今日此のウイルラルド女史を見るは抑も因縁する所ろの淺からぬを知る也。

女史には一人の兄一人の妹あり、兄はヲリバーと云ひ妹をメリーと云ふ、幼けなくしては快活淡泊の質にてありしと見へ或る時は墻を飛超え、或る時は羊を追ひ、又或る時は大樹に登られたるなど、後に女史が自ら演述せられたる昔しを忍ぶ追懐によりて推察せらる丶なり。十七才の時母氏の勸めによりて漸やく髮を結び、一個の令孃としてハートフホルドの女學校に入り、彼のカゼリンビーチヨル女史に就て學業を修め三年にして名譽を荷ふて卒業し、暫らくして紐育のセチカにあるセニシー、エスレアン、學校の女教員となり、後ち之を去りて、凡そ二年半の間だ歐洲大陸を漫遊し、此間だ特に東方の女子の有樣の憫れむべきとに着目して、

世界に於て女子に尚ほ廣ろき場所を與へんとには之を何如にすべきや、

その問題初めて大に女史が胸中に起りたり。然れど女史は今に至るまで決して過激なる女權論者にあらず、只だ女史が全身の筋を動かす迄に之をして感激せしむるは、即はち彼の人類惣躰の上より大觀して女子の地位の救はざる可らざるとを論ぜらるゝものなり。左れば、

女子の地位の進まざるは男子の地位の進まざる元因となり斯くして則はち全躰の開化の進歩を妨たぐ、

と云へる事ぞ尤強く女史を動かすものとなりける。故に或人は女史を評して、眞正なる婦人を愛する人、即ち婦人の婦人たりと云ひたるは甚はだ妥當の言なり。(未完)

寄書

本號餘白乏しき爲め不得止此の欄を省く

新報

(此欄内自由に轉載を許す)

〇常宮の御乳母

府下荏原郡池上村殿直非彦太郎の妻仙(二十年)は此程御降誕あらせられたる常宮の御添乳を命ぜられ年俸三百六十圓を賜はる由に承はる。

〇常宮の御養育掛

華族從三位[illegible]同正四位松浦詮の兩氏は今度御降誕在せられたる皇女常宮の御養育御用掛りを命ぜられたる由に承はる。

〇寶冠章

曾て制定相成りたる寶冠章を各皇族御息所及び諸大臣夫人其他數名へ近々遠からず授與せらるべき由にて目下賞勲局にて取調中なる由。

〇日本赤十字社

本年六月二十一日宮内大臣に於て裁可を經て日本赤十字社へ指令せられ同社有功章及び社員章圖式中婦人の綬は上圖の如し又同社に於ては地方委員及び支部規則により御裁可を經て永山武四氏へ北海道委員長を深野一三氏へ鳥取縣委員副長を囑托せりと云ふ。

〇折田警視副總監の留別會

本月十七日發兌の輪島新聞に、奇怪なり娼妓の行爲と題する寄書を載せたり、云く

本日發兌の貴社新聞拜見仕候處ろ去る十四日折田氏の留送別會を輪島小學校に開きたる際北街の娼妓をして席上にお酌を取らしめたる樣き記載有之候に付奇怪千萬の事と存じ早速貸座敷取締方へ罷越し(物好きの樣とーて)實否相糺し候處取締の申すには御話しの通り三十五名の娼妓を差出したり併し此事に付ては取締一己の了見も相付き兼其筋へ伺出て候處公然差許す譯には成り兼ぬるが默許の姿に致すべしとの仰せに付き一樓より二名づゝを差出したりと云ふ依て左の件々に付き疑團を生じ申候

一娼妓は公然見世を張ることも出來ず且つ免許證を得ざれば外出もならぬとは風教上に差支ある故ならん果して然らば今回に限り風教上に差支なきものと見做したるか

一其筋に於て默許するとは平生の取締方に似合はしからぬ次第ならずや且つ何故に默許したるか又た今後も同樣默許せらるゝ譯にや

一藝妓が娼妓の所爲をなすは最も宜しからざるも娼妓が藝妓同樣の所爲をなすは差支なきや

一昨年四月中發布なりたる娼妓取締は折田氏在職中執行す可きものにて同氏か去りたる後は自然廢止となりたる譯にや

一學校は演劇場、寄席、貸座敷等を遮ざくるハ勿論集會所にするさへ宜しからずとは學校管理上必要なる事にて特に集會所に充つ可らずとは去明治十五年中文部省より公達ありたり然るに今回宴會場に充て剩さへ藝娼妓の如き賤しき動物を出入せしめたるは學校の體面上に關することなきや云々(以下略す)

果して實際の事なる乎否や、而して今や三島總監病歿し、折田氏は警視總監の任を襲がれんとするの風說あるなり。

〇美術學校と女生徒

美術學校に女生徒を入れらるべき乎、是れ大ひなる問題なり。吾人同校の規則を見るに敢て生徒に男女の制限を立られざるを明知す、何しに美術學校に女生徒の入校を禁止さるゝ如きことあるべきかや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○上野郁子

故元老院議官上野景範氏の夫人郁子は久しく景範氏と共に英京倫敦に駐在せられ英語に熟練せらるゝ處より今度華族女學校の教員を命ぜられ年俸千圓下給せらるゝと云ふ。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○米國婦人禁酒會役員　此頃ろ落手したる米國婦人禁酒會昨年度の年報によりて見るに役員の給料左の如し、

ウイルラルド女史、	月給	百五十弗
同秘書ゴルドン孃	同	五十弗
通信書記カローリン、ビウエル夫人	同	八十三弗三十三錢
同書記ベルタブラウン孃	同	三十二弗
會計エスター、ピウフ孃	同	八十三弗三十三錢
記錄書記メリー、ウードブリッヂ夫人		無給

○米國婦人の決議　米國子ブラスカのエスレアン大學校と云へるは此迄男女生徒を合教したるとなるが此頃右學校に對して左の如く決議したる婦人會あり云く、子ブラスカなるリンコルンに在る聖保羅女子外國傳道師會の會員たる妾等は議決したり云く、當秋子ブラスカに於て開かるべき年會に於て子ブラスカエスレアン大學の議員の半數を教會の婦人中より撰擧すべきとを建議し尙ほ右大學の議員會に對して向后可成く婦人を當大學の教授に撰擧すべきとを請求する事。恐ろしき勢ひと云ふべき哉。

小供談

○望むまじき事

馬はヒン／＼と鳴き乍ら考えました、ドウモ己ほど立派な畜類さんは少ないナア、此の毛の美しひ所ろと云ひ、シッ尾の長い所ろと云ひ、耳の立ち工合と云ひ、顔の面長な樣姿などは恐らく天下一であらうと思ふた。然しつく／″＼と考へるに己れの脊には鞍と云ふものを置かるゝとだが、アレハどうも面白くない、いつそ鞍を置かずに天然自然に己が脊中に鞍の樣なものを置いて貰つたらさぞかし一層の便利であらう、又之ではちと丈が低いようだ、之がモ少し丈を高くして貰つて、斯うズット紳士らしく高かつたら善からうと云つて、慾には限りのないもので神さまに願つた、どうぞ／＼神さまへ、私に自然の鞍を下さい、どうぞ又丈をも少し高くして下さいと云ふと、アヽラ不思議やな此處に突然として駱駝と云ふものが現れて來た、神さまの仰せあるには、是れ馬よ、手前の形ちであつて其上丈が高く而も鞍が自然にあるものと云へば先づ此の駱駝の形ちであるが、眞實斯の如くに爲りたいのであるかと問へれました、ソコデつら／＼之を見とどうも／＼見惡いと此上なし、斯る者にされては實に弱り切ます、矢張り元の儘にして下さいと云ふた相ですが、兎角人間でも此樣なもので、人の物を見るとうらやましひようですが、よく／＼自分を考へて見ると、中々人には無い好い者を賜わつて居るです、皆さん方他の上ばかりをうらやみて自分の德を忘れてはなりません、お母さんもあり、お父さんもあり、其上人並に躰だが丈夫だ、之に越したる寶はモウ外にありませんでせう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〔每水曜日發行〕

基督教新聞

◎第二百七十三號
○廿一年十月十七日發兌

●社說
聖靈の教會

●教報
内外諸教報
倫敦通信　植村正久
米國紀行　原田助

●論說
美妙論　留岡幸助
日本傳道　奈須義質

●雜錄
老將軍の信仰
必讀十書

●雜報
神道佛教其他諸件

東京々橋區
日吉町廿番地　警醒社

專門學會雜誌

第一號目次
十二月十五日發兌

大隈伯ノ祝辭

專門學會雜誌發刊ニ就キ　文學士　天野爲之
專門學會雜誌發行ニ付一言　會頭　バッチエラーオフロース　中村忠雄
法律家ト國家トノ關係ヲ論ス　バッチエラーオフロース　板屋確太郎
美辭學ノ必要ヲ論ス　文學士　高田早苗
移住ト傳業ノ得失　會員　伊藤長夫
吾國開化ノ性質及開口以來士風ノ變遷　會員　中里眞喜司
脚氣豫防ノ話　海軍々醫大監　島田修海
其他數件

每月一回十日發刊一部定價金八錢○六部前金四十五錢○十二部前金八十五錢（一部郵稅一錢）

發行所　專門學會
東京牛込早稻田東京專門學校内

大賣捌所
神田區雉子町三十二番地
國々社書店

實地研究 內外醫法 鍼灸藥秘傳書

本書ハ數年來本會ニ於て全國名家の鍼灸幷に內外醫藥法を蒐集し醫理化學に照し實地に付き研究發明したる特効法を平容に婦女子と雖も自家に於て自由自在に行ハるゝ樣圖を挿み網羅したる書にして彼の世人を瞞着して大金を貪ぼる册子と同視する勿れ

圖入 洋裝全壹册
定價金壹圓
郵税十四錢

目錄大略

鍼灸之部

食物養生論●住居の論●運動の論●入浴の論●鍼灸法は十四經脉の辨論より秘術秘法幷に必用法ハ一も漏す事なし又病名等も數多あるも茲に登錄するハ八九十法而已餘の數百法ハ之を略す

中風一切根治法●脚氣●聾●肺病●癲癇●狂亂●瘰癧●黄疸●痛風●脹滿●子宮●五痔●脫肛●疝氣●疝癪●眼目●驚風●小兒五疳●喘息●胃病●膈症●霍亂●痢病●癪疾●傷寒●癆咳●其他

藥法の部 數百法を略す

癲病●中風●胃病●肺病●脚氣●僂痲質斯●癆咳●肝臟衰弱●喘息●痛風●疝氣●黄疸●五痔脫肛●脒小便●小兒五疳●なまず●そばかす●わざ●にきび●癪疾●風癲●いんきん田虫●小兒の咳●つんぼ●腋臭●出聲藥●白禿瘡●脒汗●疱瘡の寄溜●暑中身躰に汗の出るを防ぐ法●記臆力を強くし

物を記臆する法

痩せたる身を肥す法●白髮の跡へ黒毛を生ずる法●髮の縮みを直す法●赤毛を黒くする法●子なき人

子を孕む秘法

小兒を早く歩行さす法●齒の生へざるを速に生す法●肥すぎたる人を恰好よくやせる奇法●髮毛の短かきを長くする法●髮の抜けるを留める法●化學の作用により男女全體のきめを細かに艶を出し●さめ膚を治す法●頭のはげたるを生す法●陰處に毛なきを生す法●眉毛口毛を生す●燒ど幷に腫物の跡はげたるを生す●日に照さるゝとも日にやけざる秘法其の他は略す

色を白くする法

同毛を生す法

內務省免許

發行所 大日本鍼灸藥研究會

右ハ弊店ニ於テ取次販賣ス今回披露ノ爲メ二千部ノ內一千部ヲ向フ四十日限 **半代價金五十錢** ニテ差上候●遠國ハ着金即時御送本仕候●但シ期日內ト雖モ滿員ノ上ハ必ズ實價ニ復ス●爲換ハ大坂郵便局へ郵劵代用一割增

全國一手大取次所

大坂京橋東一丁學校前

福岡憲三

謹而貴孃紳士に告ぐ

弊店儀開業日尚ほ淺きにも關はらず四方の貴孃紳士の御愛顧を蒙り日増に繁榮化り難有仕合せに存候就ては今後一層廉價と懇切を旨とし益々勉勵仕候間御引立の程偏に不希候

パリス製美風貴孃、紳士、帽子各種、絹、毛糸製肩掛、コルセース、アムブロイドリー、諸色レース等の上等品澤山見切價を以て買求め候に付此際非常の廉價を以て賣捌き候間何卒不限多少御用向仰付被下度候以上

横濱堺町二十五番地

近江屋榮助

毎月二回

都の花

第壹號目錄　明治廿一年十月二十一日發行

- ●發行のゆきよし……香亭主人
- ●花車　第一、第二試補……美妙齋主人
- ●めぐりあい　第一、第一……二葉亭四迷
- ●中原の鹿　第一回……流鶯散史
- ●政黨美談淑女の操……
- 脚本 序幕三齣……學海居士
- ●華宵の夢　第一、第二……槐堂仙史
- ●諸文評釋　鉢の木……迷花生
- （插圖）
- ●月下車を停むる圖……小林清親
- ●上野茶亭の圖……尾形月耕
- ●淑女立聞の圖……武内桂舟
- ●雪中旅僧を呼ぶ圖……松岡緑芽

一冊十錢五冊四十七錢十冊九十錢
廿冊一圓七十錢（郵稅一冊二錢）

發行所　東京本町三丁目　**金港堂**

八朔梅并ニ薔薇早咲花盛

本所小梅引舟通り請地村

東花園

交詢案内

（催促する勿れ郵券十錢送れ委細に申來れ）

● 雇はれたき方（乙）

七 裁縫　年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇はれ度き者あり華族官か町家ならば大家のかたき内にて築地邊ならば通いても宜しとのこと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十二 教師　栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教授に雇はれたきものあり可成くは駒町か駿河台邊を望む

一九 召使　裁縫の稽古を主にし其他女子小學校等の留守居の者に雇はれたし

二〇 裁縫　年齢十四五才にて華族様か貴官様方の御方之内ニ小間使に雇はれたし最も裁縫は習得けくだされば給料は不申受

二三 助教　年齢十八にして修身物理等を教へ小學校などに雇はれたし都合に依り他の學科をも教授致し但し學校に限らず余暇に修學するを得ば何方にても不苦成る可くは基督信者の方を望む

● 喜びのめぐみ

ト 教師乙第二十二號は甲第十號と相談調へたり

那珂通世編

支那通史

郵稅一冊十六錢宛

一卷 五十錢
二卷 五十五錢
以下續出

第二卷目錄

始皇之政●秦氏雜胙●沛公入關●項羽爲霸王●高祖諸政●楚漢分爭上●楚漢分爭下●漢滅楚●漢業初完●高帝好儒及信后黨●呂及諸呂之亂●文帝仁儉●景武抑損諸侯●武帝好儒及仙●武帝窮兵拓疆●武帝暴政及晚年悔改●宣帝中興●漢威震絶域●元帝任官者●成帝政歸王氏●王莽敗滅●光武復漢●光武平群雄●光武諸政●孝明孝章之治●漢威復震西北●外戚擅權及宦官誅滅●東漢多清名之士●黨錮之禍●漢末大亂●曹操定中原●漢上三分●諸葛和蜀漢●司馬氏世秉魏政●司馬氏滅蜀吳●官制沿革●州郡牧守●符封品秩

發行所　文部省圖書賣捌所　東京日本橋區通塩町八番地　**中央堂**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

●女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き社説、佳傳、叢話、及び諸家の論説等あり且つ其時々の新報を洩なく掲げたるものなれば、右第一號より第百號に至る百册を御覽あらば即ち一百人の賢婦烈女の傳記、一百篇の有益なる社説、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年餘間の女の出來事を悉皆承知することを得べし。之を合して机上に置かるれば大ひなる姫鑑となるべし、之を遊び物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓と申しきれぬ質價候はん、時々の浮たる小説、もしくは一二百頁の婦人論の書物を購讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百册を左の低價にて賣拂ひ可申候。

女學雜誌初號より百號迄の内何號にても百册御購求被成候諸君へは特別割引**金壹圓**にて御望の號數取揃へ發送可致候

但し一號より百號迄の内にて十七八册欠號出來致し候に付き一號より百號迄一揃(凡そ八十三册)御購求被成下候御方樣へは特別割引即ち**金八拾錢**にて御送金次第直ちに發送の都合に致すべく候

府外は別に郵送料八十錢申し受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費にて御屆け可申候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく速に御注文無之に於ては追々欠號に相成り候間御入用の御方樣は一日も早く御注文被下候樣願上候

東京々橋區日吉町八番地

女學雜誌社

發兌				
九月。一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢　郵税。一錢　(但府內無郵税)

十册。四十八錢郵税。十錢　(同前)

半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢

一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行　一回　前金拾錢　(廿七字詰)

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町設々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町閑々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新肉町貢明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目日月堂○同本町四丁目文明堂○同太田町光峰堂○同本町三丁目萬字堂○同本町六丁目○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボ○京都四條通小橋西へ入北尾鴻章堂○大阪備後町四丁目○同石町伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺國分町○名古屋本町十五番地松江新町々橋大手○大阪淀屋橋長尾萬吉○紀伊和歌山十號信濃町○長崎本町三丁目日本文明堂

明治二十一年十月廿五日印刷
明治二十一年十月廿七日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

●女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き社說、佳傳、叢話、及び諸家の論說等あり且つ其時々の新報を洩なく揭げたるものなれば、右第一號より第百號に至る百冊を御覽あらば即ち一百八の賢婦烈女の傳記、一百篇の有益なる社說、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年餘間の女の出來事を悉皆承知することを得べし。之を合して机上に置かるれば大ひなる姬鑑となるべし、之を遣ひ物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓と申しきれぬ實價候はん、時々の浮たる小說、もしくは一二百頁の婦人論の書物を購讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百冊を左の低價にて賣拂ひ可申候。

女學雜誌初號より百號迄の內何號にても百冊御購求被成候諸君へは特別割引**金壹圓**にて御望の號數取揃へ發送可致候

但し一號より百號迄の內にて十七八冊欠號出來致し候に付き一號より百號迄一揃(凡そ八十三冊)御購求被成下候御方樣へは特別割引即ち**金八拾錢**にて御送金次第直ちに發送の都合に致すべく候

府外は別に郵送料八十錢申し受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費にて御屆け可申候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく速に御注文無之に於ては追々欠號に相成り候間御入用の御方樣は一日も早く御注文被下候樣願上候

東京々橋區日吉町八番地 女學雜誌社

發兌

九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢	郵税。一錢	(但府内無郵税)	
十册。四十八錢	郵税。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行	一回	(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町讀々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町闡々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町貝明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文善堂○橫濱住吉町角田屋眞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入洋集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポート○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町縣與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年十月廿五日印刷
明治二十一年十月廿七日出版

東京京橋區日吉町八番地
發行所 女學雜誌社

東京京橋區日吉町八番地寄留
編輯兼發行者 巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷者 森田豐